― すべての学校、すべての教職員が、これだけは必ず取り組む ―

摂津の学校教育スタンダード

“気持ちのそろった教職員集団で、豊かな学びを創造する学校づくり”

平成27年６月から「学力向上推進懇談会」では、学力向上のための課題整理や取組みの方向性を検討してきました。学力向上の取組みは「学校運営」「学級経営」「学習・生徒指導」「教職員の指導力」「学校・家庭・地域連携」等の総和（学校の総合力＝「学校力」）です。これらがうまくかみ合ってこそ、実現できるものです。

ここに提案する取組みの指針は、個々の学校が創意工夫した取組みを進めて行く上で、すべての学校が共通に取り組む課題を「めざす姿」と「アクションプラン」として示しています。

摂津市のすべての学校が「チーム摂津」として、気持ちのそろった教職員集団で、豊かな学びを創造する学校づくりをめざすため、「摂津の学校教育スタンダード」と名付けました。

私たちのめざす学校像

チームで歩む学校

「子どものために」で一致した
前向きな学校

- 中学校区で共有された「めざす学校像･子ども像」
- 具体的な目標を示し、学校を牽引するリーダーシップ
- 「チーム」として、柔軟で機動的な組織
- 気持ちがそろい同僚性・協働性のある教職員集団

豊かな学びのある学校

落ち着いた学習環境で
すべての子どもの学びを支える学習指導

- 意欲を引き出す授業づくり
- 安心して学べる、規律ある学習環境
- すべての子どもの学びを育む支援教育
- 学校と家庭で育む学力、学習習慣

学校力の向上

つながりをつくる学校

「信頼」でつながり合う、学校・家庭・地域

- ９年間の連続性のある一貫指導
- 日常的で定期的な学校間連携・交流
- 双方向性のある情報発信による家庭、地域との連携
- 責任、分担、協力、支え合いのある家庭連携・地域連携

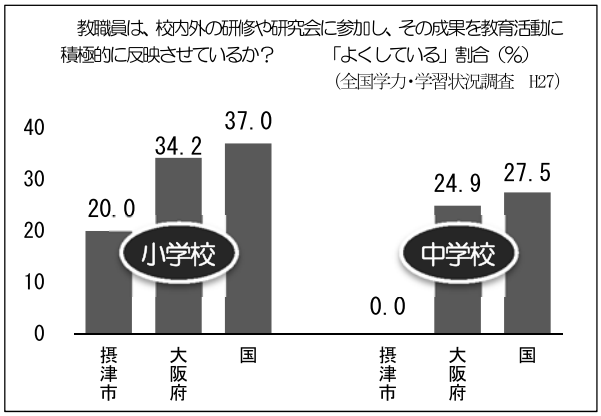
摂津市教育委員会　　平成 28 年 12 月

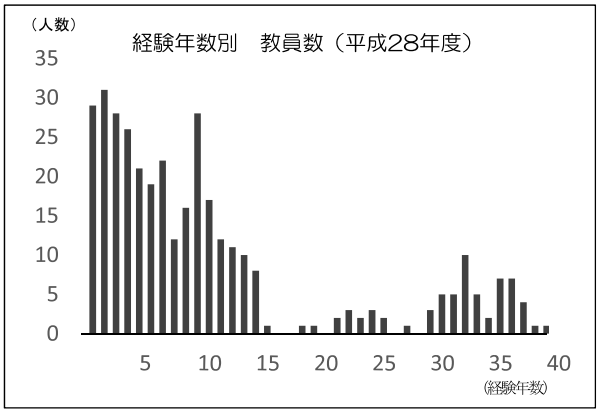
チームで歩む学校

「子どものために」で一致した前向きな学校

現状と課題

- 校内外の研修の成果が、学校全体として共有できていない。
- 経験の浅い教職員が急増しており、若手の教員を育てる学校づくりが急務である。





めざす姿

- **中学校区で共有された「めざす学校像･子ども像」**
  中学校区の小中学校が地域の課題や子どもの実態に応じた教育を推進するため、めざす学校像や子ども像を共有し、常に連携・協力し合った教育活動に取り組んでいる。
- **具体的な目標を示し、学校を牽引するリーダーシップ**
  チームの力を引き出し、学校の組織力を戦略的・効果的に高めていくため、管理職やミドルリーダーが、目標を明確に示し、また、その目標が教職員に「自分の事」として共有されている。
- **「チーム」として、柔軟で機動的な組織**
  複雑化・多様化した課題を解決するため、ＰＤＣＡサイクルを機能させ、また、教職員一人ひとりの役割が明確であり、それぞれの教職員の専門性や持ち味を活かし、チームワークを発揮している。
- **気持ちがそろい、同僚性・協働性のある教職員集団**
  「子どものためにできることは何でもやろう」という思いを共有し、信頼関係で結ばれた、「学び合い、育ち合う教職員として同僚性のある学校づくりを推進している。

アクションプラン

- 中学校区での９年間を見通した「めざす子ども像」を策定し、その実現のために学校教育目標や学年・学級目標を設定する。
- 校長は、教育理念や学校経営方針を明確にし、実現のための具体的方策を、教職員だけでなく、家庭・地域にもわかりやすく示す。
- 教育課題を解決するために、校長を中心とした組織的に対応できる校務分掌を作成し、ＰＤＣＡサイクルを機能させた組織の運営を行う。
- 経験の浅い教職員を中心とした「メンターチーム」をつくるなど、学校として人材育成策を策定する。また、日常的に学び合い、サポートし合う関係を築く。

※ **メンターチーム**：複数の先輩教職員と複数の若手教職員等でチームを編成し、若手教職員の資質能力の向上を支援することで相互の人材育成を図るＯＪＴの一つのシステム

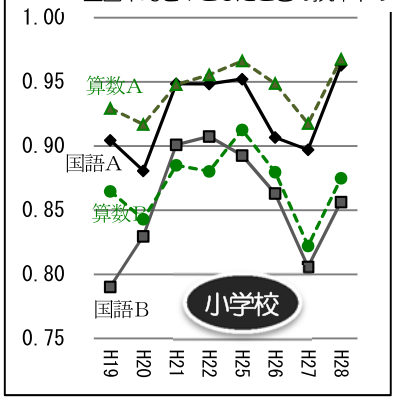
豊かな学びのある学校

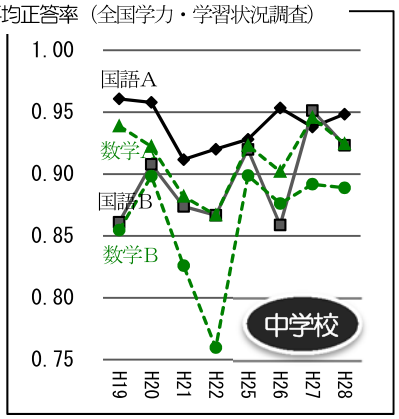
落ち着いた学習環境で、
すべての子どもの学びを支える学習指導

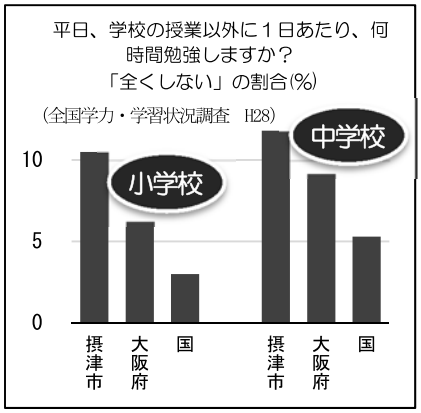
現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において、平均正答率の全国との差は大きい。
- 家庭学習の時間が少なく、家庭での学習習慣が定着していない児童生徒が多い。

全国平均を１としたときの摂津市の平均正答率（全国学力・学習状況調査）







めざす姿

- **意欲を引き出す授業**
  すべての子どもが「わかった！」「楽しい！」と言える授業をめざし、授業研究が小中学校で活発に実施され、基本的な学習スタイルが中学校区で共有されている。
- **安心して学べる、規律ある学習環境**
  学校として統一した「ルール」が徹底されるなど、規律ある雰囲気が醸成され、教室が安心して意欲的に学ぶことができる「居場所」となっている。
- **すべての子どもの学びを育む支援教育**
  すべての教職員が支援教育について、「支援を必要とする子どもはもとより、すべての子どもへの効果的な指導である」という共通認識のもと、支援教育に取り組んでいる。
- **学校と家庭で育む学力、学習習慣**
  家庭との連携を図りながら、基礎的な生活習慣や学習習慣を定着させ、授業と家庭学習が双方向で結ばれ、子どもの基礎学力の育成が図られている。

アクションプラン

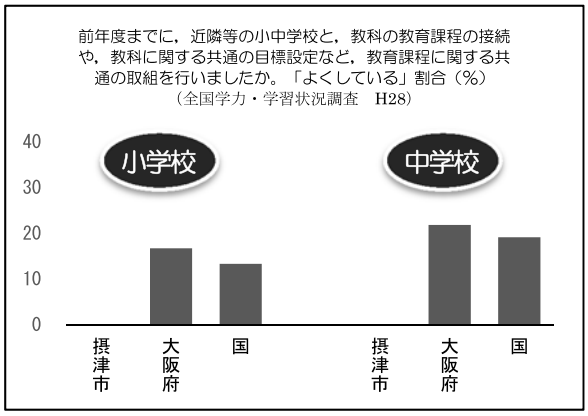
- 小中学校で一貫した指導方法をめざし、主体的･協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点から、授業改善を進め、定期的な研究授業を実施する。
- 子どもたちの一人ひとりのよさを引き出し、お互いの違いを認め合う集団づくりに努める。また、中学校区で一貫した生活規律、授業規律の徹底した指導を図る。
- 幼・保・小・中を通した支援教育を進めるため、校種間の連携のもと、個別の教育支援計画を作成する。また、すべての授業のユニバーサルデザイン化を進める。
- 自主的・主体的な学習習慣を培うため、家庭における自学自習の方法の指導や計画的な課題の提示を行うなど、学校の授業と家庭学習の連携を図る。

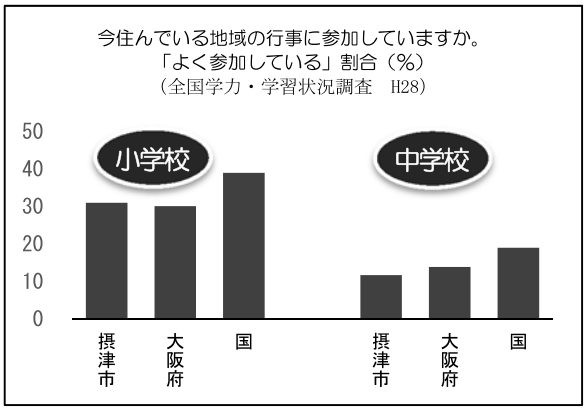
つながりをつくる学校

「信頼」でつながり合う、
学校・家庭・地域

現状と課題

・中学校区で合同研修等を行うなど、交流はあるが、共通した取組みは進んでいない。
・地域とのつながりが全国と比べて弱く、子どもを支える環境づくりが必要である。





めざす姿

- **９年間の連続性のある一貫指導**
  中学校区の小中学校が「9 年間で子どもを育てる」という積極的な姿勢で相互理解や連携に取り組み、系統性のある実践が行われている。
- **日常的で定期的な学校間連携・交流**
  日常的に校区の子どもたちの様子を交流し、「めざす子ども像」を実現することをめざした取組み等が小中学校で定期的に実施され、教職員が積極的に参加している。
- **双方向性のある情報発信による家庭・地域との連携**
  学校での取組みを成果に結びつけるために、「家庭・地域」との関係を大切にし、学校からの一方的な働きかけだけでなく、家庭・地域からの意見等も取組みの参考にし、「双方向的」なかかわりとなっている。
- **責任、分担、協力、支え合いのある家庭・地域連携**
  保護者や地域人材による日常的な学校教育活動への参画体制等の構築により、学校教育活動が充実し、　校区全体の教育力を高めている。

アクションプラン

- 中学校区の共通する課題のもと、先進校視察などを行い、効果のある取組みを中学校区全体で取り入れ、成果について定期的に交流する。
- ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）やＳＣ（スクールカウンセラー）等と連携し、学校や家庭地域での情報を学校間で共有し、中学校区全体で子どもを見守る。
- 学校ＷＥＢサイトをタイムリーに更新するとともに、学校協議会や保護者の意見を取り入れ、教育活動に反映する。
- 学校の課題や取組みをオープンにしながら、地域の人材が積極的に参画することができる場をつくる。